





「んっ…は…ん」

「んっ…!?」

何……………?

動け…ない…?

「そうだ私…。
蟲の怪物に襲われて…」

「うっ…!？」

この異臭と熱気…ここは怪物の体内？
何とか抜け出さないと…!」



「どうして…この蟲の子供達？
放してっー」

「武装が無くてもっ
こんな拘束くらいつ…」



ギョ!

げん!

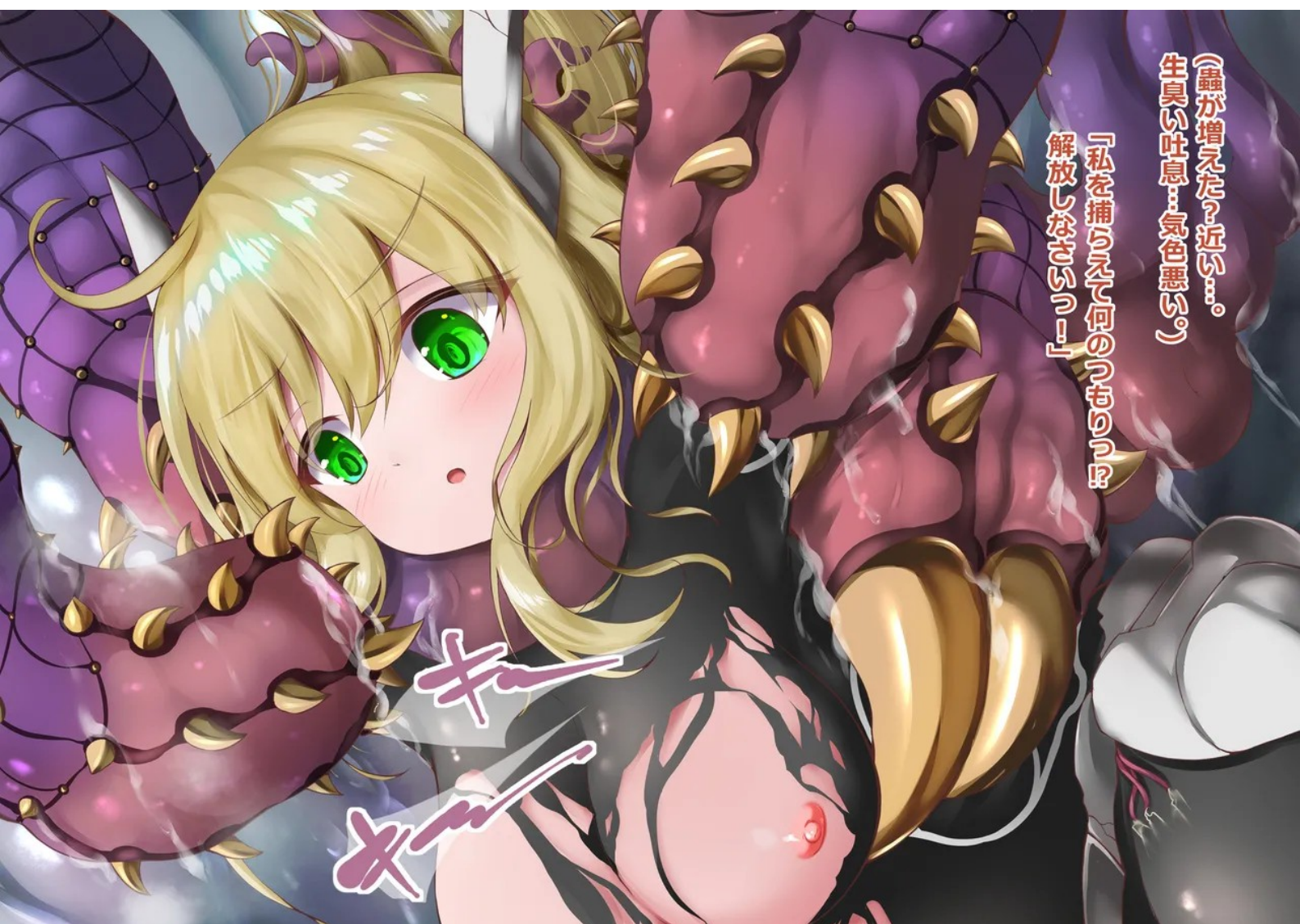
ん!!

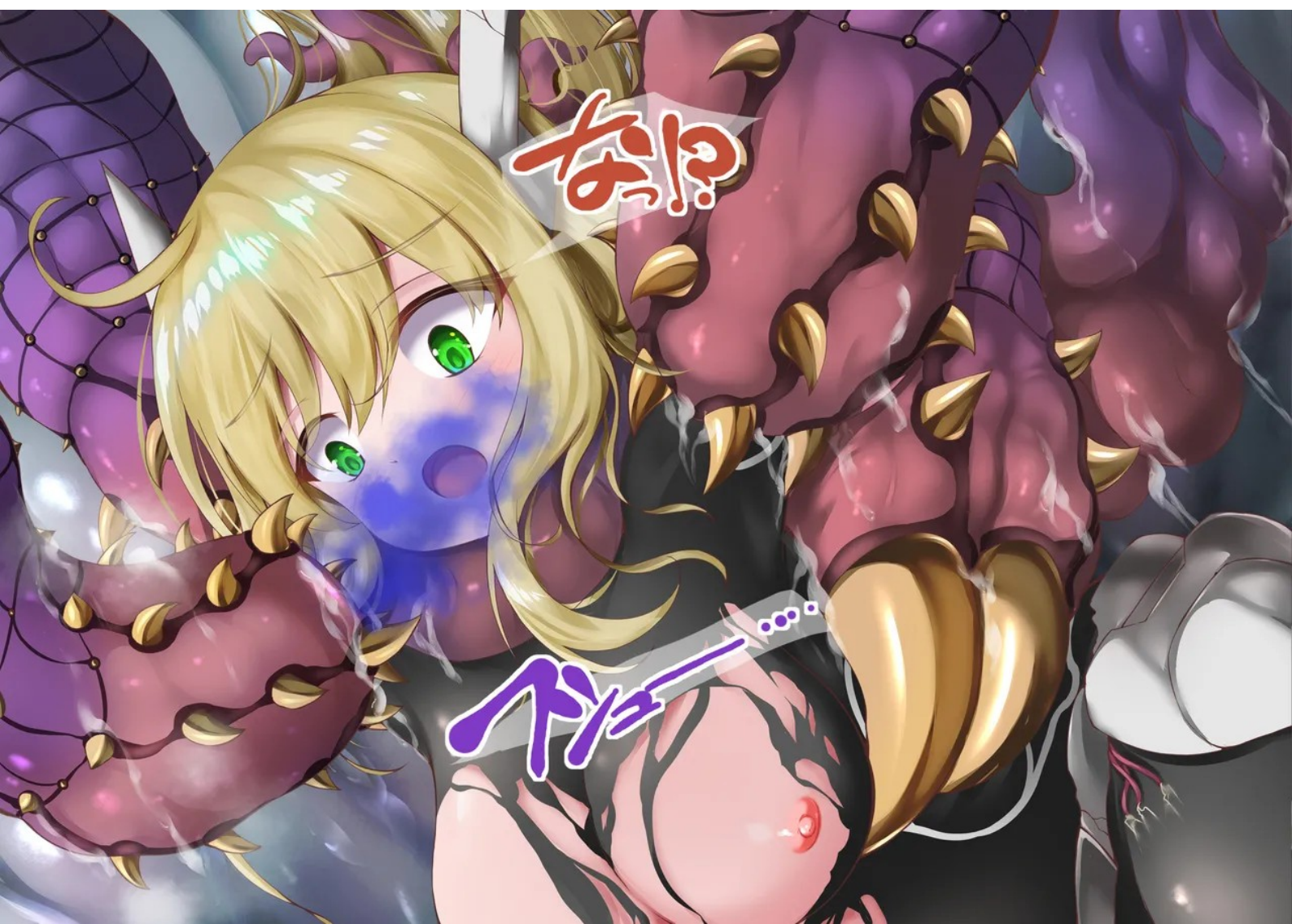
ギョ!



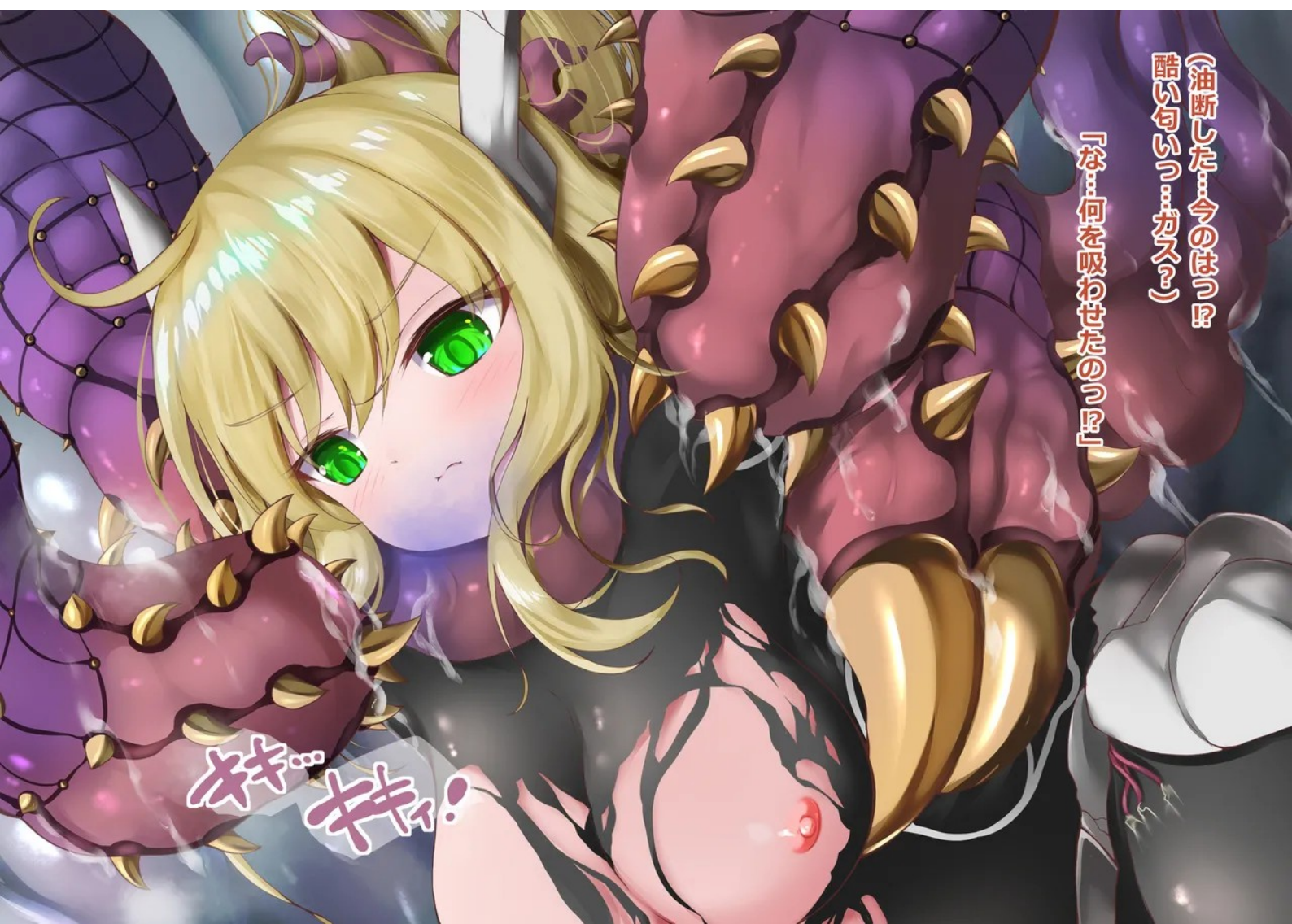
（蟲が増えた？近い…。
生臭い吐息…気色悪い。）

「私を捕らえて何のつもりっ！
解放しなさいっ！」









（油断した…今のほう？
酷い匂いっ…ガス？）

「な…何を吸わせたのっ？」

キキ…キキ！



「うっ…あれ…?
か…身体が…痺れてっ…!」

（苦しくはないけど…上手く動けない。
全身の力が抜けて…あのガスは毒っ!）





「うん...うん...うん...
うん...うん...うん...」

（今の...蟲の体液？）

ネー...





「そんな…装備がつ!」

（蟲の体液で一氣に腐食した!?
既に半壊してたとはいえ
こんなに簡単に壊れるなんて…）

いっぺん…

「ス…ス…ス…も溶け始めてるっ!」

（変身が解け始めてる…。
生身で蟲の体液を浴びたら
流石に身体が不味いっ…!!）





「時間が無い…！
一刻も早く抜け出さないと！
せめて片腕だけでも抜けられよう！」

（…まだ力が上手く入らないっ！
あの毒がまだ効いてるのね…
お願い…何とか動いてっ…！）

ギッ



「あぎっ!?…っえええ!」

(首の触手が締まって…
苦しい…首絞められているっ!?
これ…抵抗するなんて事…?)

ギィッ!

トガッ…

ギィ…!

ギィ…!



（首の触手が緩んだ...？
よかった...助かった...
でもこれじゃもう抵抗できない...）

は!!

(はー...)

い...

は



（またガス吸ったっ…今度は多い…。これ以上は…駄目っ！）

がわ...

がっ...



（でも今は空気が足りないっ！
息止めてられないっ！
思いつき吸っちゃう……っ……よお）

「つああ……すううううううう！」

「ゲホッ……えええ……
臭い……臭すぎるっ……
う……うっっ……」

（ガス……今度は大量に吸っちゃった……！
でも何だかさっきのガスと違う……
甘い香りが混じってたような……？）

オキイ……

スー





「ひゃ!?身体が火照って...どうなってるの!」

（やっぱりさっきのガスとは違う...
肌が熱いっ...それにア...アソコが切ないっ...!?）

はー♡

キキキ...

キーン♡

はー...♡

「んんっ…こんな状態じゃ抵抗も…
やっ…？スーツがもう限界っ…
嫌っ…持ちこたえて…！」

（んんっ…
身体全然動かせない！
もう駄目っ…）

い／＼ユ／＼…





や...

ん...な...

ひひひ...

「あぎっ!?…んああ…♡」

（そんな…スーツまで失った…!?
ああ…蟲の体液まみれの皮膚が焼けるように熱い…
私の身体も…このまま溶かされてしまうのっ…!!）

ゼウッ

♡/♡♡

♡/♡♡



「何処へ行くの……」
待って……お願い助け……」

んっ!

ズズ……

キーキー





「あひっ…んうっうっ…
……あれ…？何ともない…
身体…溶け…ない？」

（全身が凄く熱くて疼く…。
でも…それ以上の変化はないみたい…。
消化しようとしているんじゃないの？）

ん…♡

ん…♡



「ほひいっ♡な…何っ?」

（怪物に吞まれた手足…しゃぶられてるっ?）

舌みたいなのが中で巻き付いてっ!

私の汗や汚れを舐め取るみたいにつ…!）

「んんうう♡やめっ…ああああ♡」

（大人しかつたのに何で急にこんな…っ…）

激しく吸い付いてる…生身になったせい?

それにおかしい…身体がこんな敏感につ!）



ちゅっ♡

あゝ

ちゅっ♡

ちゅっ♡

んん♡

レレ♡

レレ♡

「あんっ♡…はぁ…はぁ…
大人しくなつた…？
ううっ…気持ち悪い…っ…」

（蟲に私の手足…隅々まで舐め取られた…っ…
蟲の中ブヨブヨで…ドロドロして凄く熱いつ。
食べる気はないみたいだけど何が目的で…？）

んっっ

ドロォ…



「え？また別の蟲...？
今度はお腹の方だ近づいて...」





「んっうっ♡あぐっ…んっ♡」

（舌先でお臍の穴拡げてねじ込んでっ！
うっっ…手足みたいに舐めながら
汚い体液念入りに塗りつけてる…っ…）

「もうやめっ…んっっ！ひゃい…♡」

（お臍こんな乱暴にされてるのに痛くないっ…
それどころか気持ちよくっ…!?!）

ゼッっ

ゼッっ

グハッ…

グハッ…

グハッ…

グハッ…





「はあ…はあ…今の…何？」

（お臍の奥…刺され…た…？
舌が臍の絡みたいに繋がって…
何か流れ込んできてる…？）

「うぐっ…？」

ああああお…っんうっ♡」

（お腹の中…内臓が今の肌みたいに疼く
特にお腹の下辺り…凄く熱くて…
な…何をされてるのっ…？）

ん…

はあ…

ん…





え...?
や...!

ズズ...

ギィ...

「ひっ...!?
また蟲が...
後ろ...から...っ」
(そっちは...ま...まさかっ!?)



はぁ... ぐっ!!

ぐっ!!

ぐっ!!

(お尻... いいいい!!)



あ

ゼン

ん

キラ

キラ

ゼン

「お尻で…舐められてるし…
あつ♡そ…そんなとこ舐めちゃう!?
はひ♡もうやめし…」

(こんなの…何で気持ちいいのお…!?
蟲のドロドロ塗り込まれてるっ!?
やつ…お臍みたいにおかしくなるっ!)





うわぁ...♡

「あがっ!?...んひひひひ♡」

（お臍みたいになたっ...!?

お尻...お腹の中...腸?内臓?

全部...体内の感覚が変わってく!?

まさかこの蟲達...私の体内を...

作り変えてる...の...?)

グッ

クッ

ドクッ...!
ドクッ...!



「収まつた...?」
見た目は変わらない...でも...
感覚は今までと間違いなく違う。
私の体内...どうなっちゃってるの...」







（蟲の舌がっ!?）
口の中舐め回してっへん
い...いやあああ...）

はっはっはっ
はっはっはっ

はっはっはっ





「あがつは...ごほう...
やめでええ...
んく...んく...」

(うえ...苦い...不味い...
蟲の臭いドロドロ汁...
口とお尻から注ぎ込まれてる...)

うん...!

ビュッ!

ビュッ!

ビュッ! ビュッ!



「うぶっ…
んぶっ…♡んぶっ…♡」

(吐き出したいのに…舌で邪魔されてる
汁熱い…身体の中全部焼けちゃいそう…。)

「んじゅっ…あむっんっ…ちゅっん♡」

(何で…身体が勝手に求める…
舌絡めちゃう…私…この汁で喜んでる？
こんな臭くて不味いの…
極上の薬みたいに感じられて…
ああ…凄く身体が楽になる…。)

んい
43わ…♡

ズエわん



「んふう...んんっ...
んん...」

（まだ蟲が...
待って...そこは...?
そこだけは舐めちゃ駄目っ!
やめてえええ!）

!!

ハッ

ヒッ...

スー...





「んんん!!」

(嘘でしょう?)
舌先がおしつこの穴まで
入ってきてっ!!

んんん!!
んんん!!

んんん!!
んんん!!

んんん!!

んんん!!
んんん!!



「んっ…んんんんんん」

(す…吸われてる…?)

まさか…おしっこ飲んでるの…?

いや…いやあああっ!!

ぐわっ…

グワッ…

グワッ…



「んんんんん」

(んいっ…熱いっ!?
まさか空っぽになった私の膀胱に
あの汁注ぎ込んでるの…?)

ぶわわーん

オヤ!

ドク…

ドク…



「んふんふん...んふん」

(ううう...熱いの沢山注がれて...
膀胱...破裂しちゃいそう...!)

たん





「えおおお...がぼっどっげえ!んじゅっっっ...んじゅっっっ...」

(またガスがっ...鼻から吸わされるっ
舌で喉奥突いて無理矢理吸わせてるっ
臭すぎるっ濃いつ...これ変になる...
頭おかしくなる...うう...)

がっ...

んじゅっ...

がっ...



おめー

わー...

「んえ...ぶはっは...すんすん...
あがっ...おお...すんすん...♡
おほっ♡...おお...おお...」
(はひい...頭ふわふわする...
何で...蟲の臭い息で肺が幸せえ...
これ...いっせお...♡)



「あがっ...
にゅるるるるるるるるるる...♡」

(うっせーっ...Jはせく...♡
あらっお入しよ...になにゆか...?
ああ♡おお♡んえへ♡
ふひっ...くっやらの...おおお...♡
あひやま...くっるるっ...Jおるるる...♡)

にゅる...

にゅる...

にゅる...

にゅる...

にゅる...

にゅる...



「ゼッ♡ゼッ♡わぁぁぁ♡」
（おわぁくくく…♡おわぁおわぁぁ♡
おわぁぁぁ…ん…ん……
……
…ゼッ♡わぁぁぁぁぁ♡）



【A.A.....♡♡♡】
(.....)

アッ...

ズッ...

ズッ...





ズィィ...

ズィィ...

蟲の吐息…ガスを大量に吸い最初に発狂してから
どれ程経ったのだろうか？
私はまだ生きていた…いや…生かされていた。
そして蟲達からの責めを繰り返し続けられている…。

くっ…くっ…



目覚めるといつもの変わらぬ光景が広がる。
生臭さと熱気が籠る肉壁の空間…。
蟲達の唾液でドロドロの火照った身体…。

毎回発狂しどれ程意識を失っているのかわからない。
だが目覚めると私は必ず正気を取り戻していた。
吸ったガスの効力が抜けたのだろうか…？
思考もあれが嘘と思えるくらいはつきりしている。





私の目覚めに気づき、すぐ蟲達は寄ってくる。
ガスの毒素が抜けているとしても、既に蟲達に作り変えられた身体は
思うように動かず抗う術もない!!。
繰り返される蟲達のその行為を耐えるしかない状況だった!!。

私は身体の中も外も蟲の体液で汚され続けた。
蟲に埋め込まれた臍のコアがそれを糧に私の体内を作り変え
私の身体は蟲の体液に順応していく。
その影響が蟲の体液で必要な栄養が賄えているようで空腹や
喉の渇きも感じない。

そして最後の仕上げというようにあのガスを吸わされる。
激しい快感と共に思考が狂わせ、私は必ず意識を失う。
そして目覚めるとまた、それを何度も繰り返している。
そして何回目かわからないその行為の後...
その変化は起きた。





「ゲホッ！ゲホッ！うえっぶ…。

はぁぁぁ…♡はぁぁぁ…♡

あっ…漏れっ…んぁぁぁ…♡」

（ぁぁ…もうこれで何回目………？

蟲の体液…ドロドロおしっこ漏れちゃってる…。

尿道締まらない…滅茶苦茶にされちゃったよお…。）

「お臍の核…今は心臓みたいに脈動してる…。

私の体内…今どうなってるの？」

（うっ…全身ドロドロですっかり酷い匂い…。

中も外も何度も舐められ汚され続けて染みついている。

私…このままここで弄ばれる…の…？）

あ…ぁ…♡

ドカ…
ドカ…

…
…
…



「あ…れ…？私…今回は何ともない…。
意識が途絶えない…？」
（蟲の体液飲まされて…舐められて…
あのガスも沢山吸ったのに…。
頭が嘔みたいにはつきりしてる…。
何度も吸って耐性が付いたの…？）

「蟲が…来ない…」
（でも…拘束はそのまま。
解放する気はないみたい…。
何…どうなるの…）





「いや…蟲來てる…!?
また…舐められ…っ…!」
え…?」
（いや…顔を回けてない?
な…何をする気…?）」

ズル…

ズル…







「やつ……んっ……ああ♡
やつ……そこ……擦り付けないでっ♡
んんっ……んんんっ♡」
（この蟲の生殖器……あつ……熱いっ……。
まさか蟲はこの為に今まで私に準備を？
それが終わったから……
今から孕ませようとしてるんだ……。）

あゝん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん









「ああ♡あううう♡♡」
（そんな…蟲のがっ…太いの二瞬で奥まで…
でも何で…全然痛くない？
熱いので膣内拡げられて
無茶苦茶になってるのに…
き…気持ちいい♡♡）

はっ♡はっ♡

4.ル

グッ♡



「あっ♡んあっ♡あっ♡」
（大きいの…ゆっくり動き出したっ…
私の膣内…掻き回して…
蟲の体液隔々に塗り込んでるっ…）







「あぎっ♡んおお♡」

（やっ…膣内に精液塗り込まれてるっ…

熱いっ…これ舐められる感覚に似てるっ…

身体みたいに私のアソコも作り変えてるの…？

（何か…私の中で膨らんでるっ!?

どんどん熱く…大きくなって…!?）

はっっ

ゼッ

んっ…

んっ

んっ

んっ♡





「あきつ♡ほひつ♡んひらひら♡」
「膣内も子宮思いつきり揺げられてる…
こんなの無理っ…壊れちゃうっ…
お腹貫かれちゃうっ…!」

おはっ♡

んぎゅ♡

グハッ♡
グハッ♡

グハッ♡



な

「んぎっ! あはっ♡はっ♡はへえええ♡」
《急に激しくっ!》
突かれてるっ♡子宮潰れちゃう♡
こんなにされて…何で気持ちいいのぉ♡)

「はひっ♡はっ♡はっ♡ふひやえええ♡♡♡」
《ああ♡…ガス吸ってないのに思考飛んじやいそう…
嘘でしょ…こんな状況で蟲のおち○ちん…
私のアソコに馴染んでくる…う♡
子宮潰れながら精液…子種を求めてる…う♡)》

アッ
アッ

ぐわ!!







だっ!?
ん 抜け...

ブルッ
ブルッ

ヌグ...

ググッ...

「あひっ♡ふえ...?」
（何で...もう射精したのに...
全部抜いてくれない...の?）

「ひっ...!?」

（蟲のおち○ちんから何か
私のお腹に昇ってきて...っ...!?）



「あひっおっ♡おお♡」
（これ…まさか蟲の卵…？
お腹に産みつけられてるの…?!）

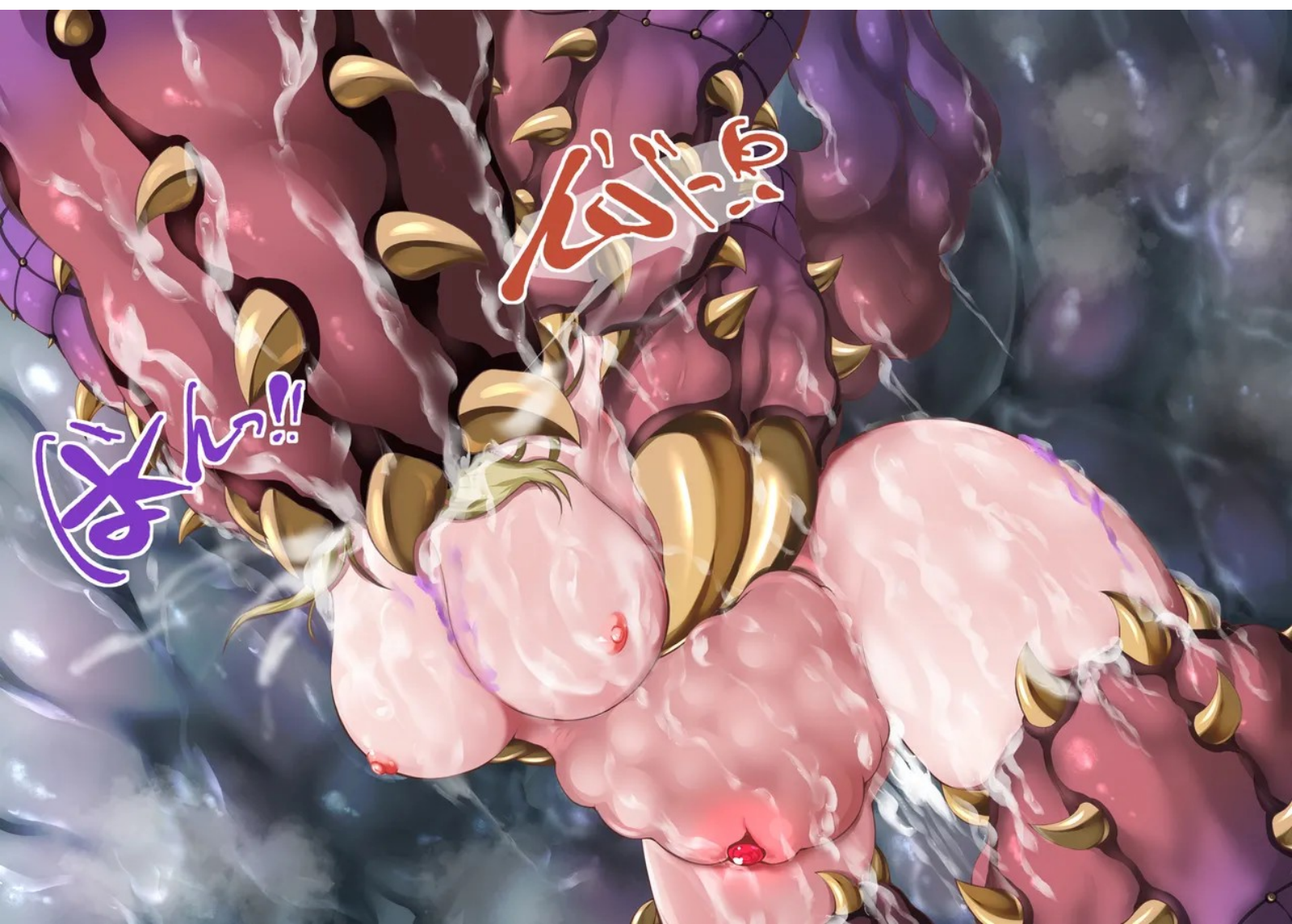






「むっ……これ全部……蟲の……卵……
ドクンドクン……私のお腹で……
……。
うやっ……うやあああ——っ——」





（何も見えない…!?）
うえっ…この生臭い匂い…
確か蟲とキスした時の…
ううん…大きいせいかそれより臭い…っ…!!

（これまさか…蟲の口の中
やつ…まさか私の頭…呑み込まれて…!?）

んんん…♡

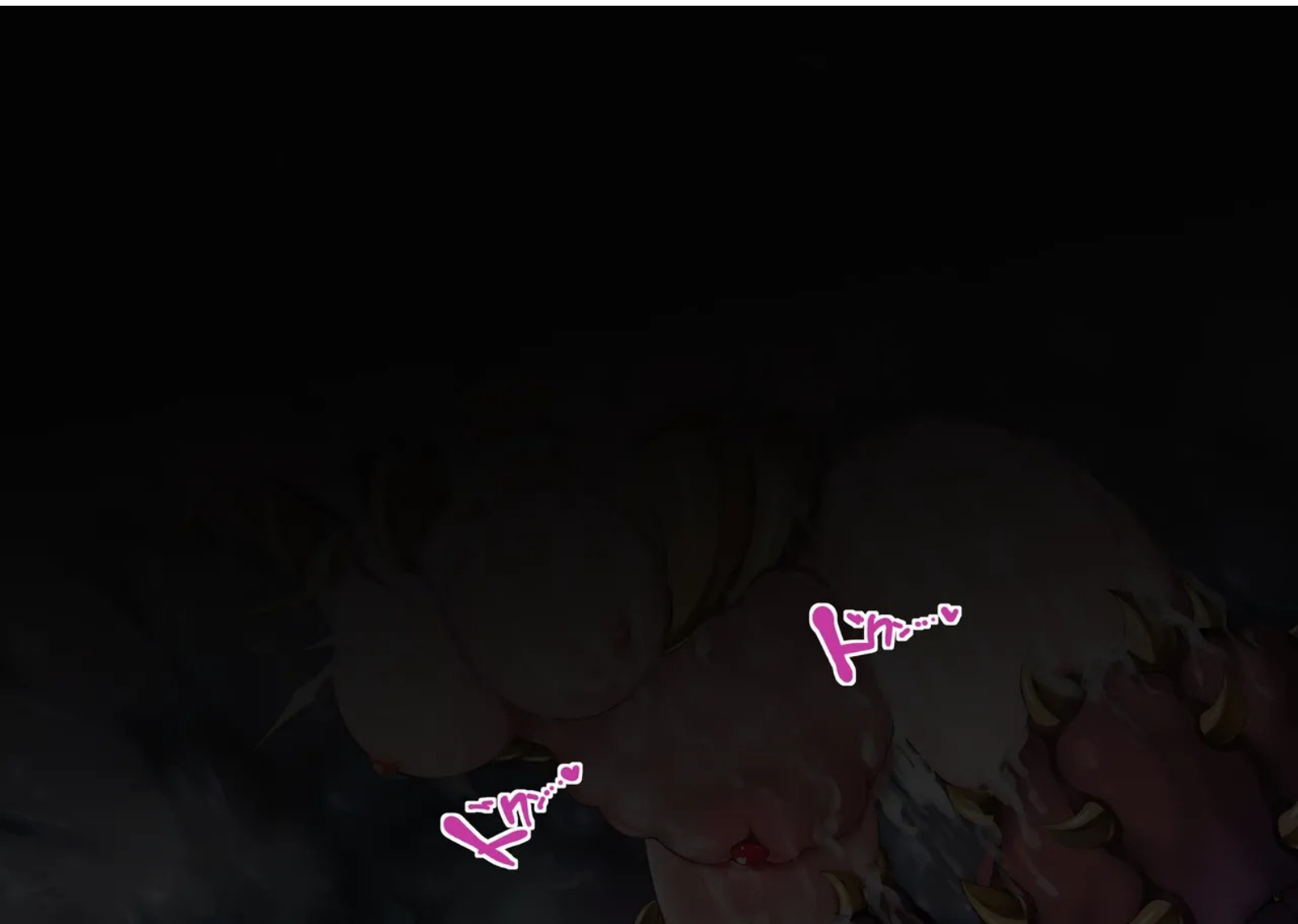
っ!!

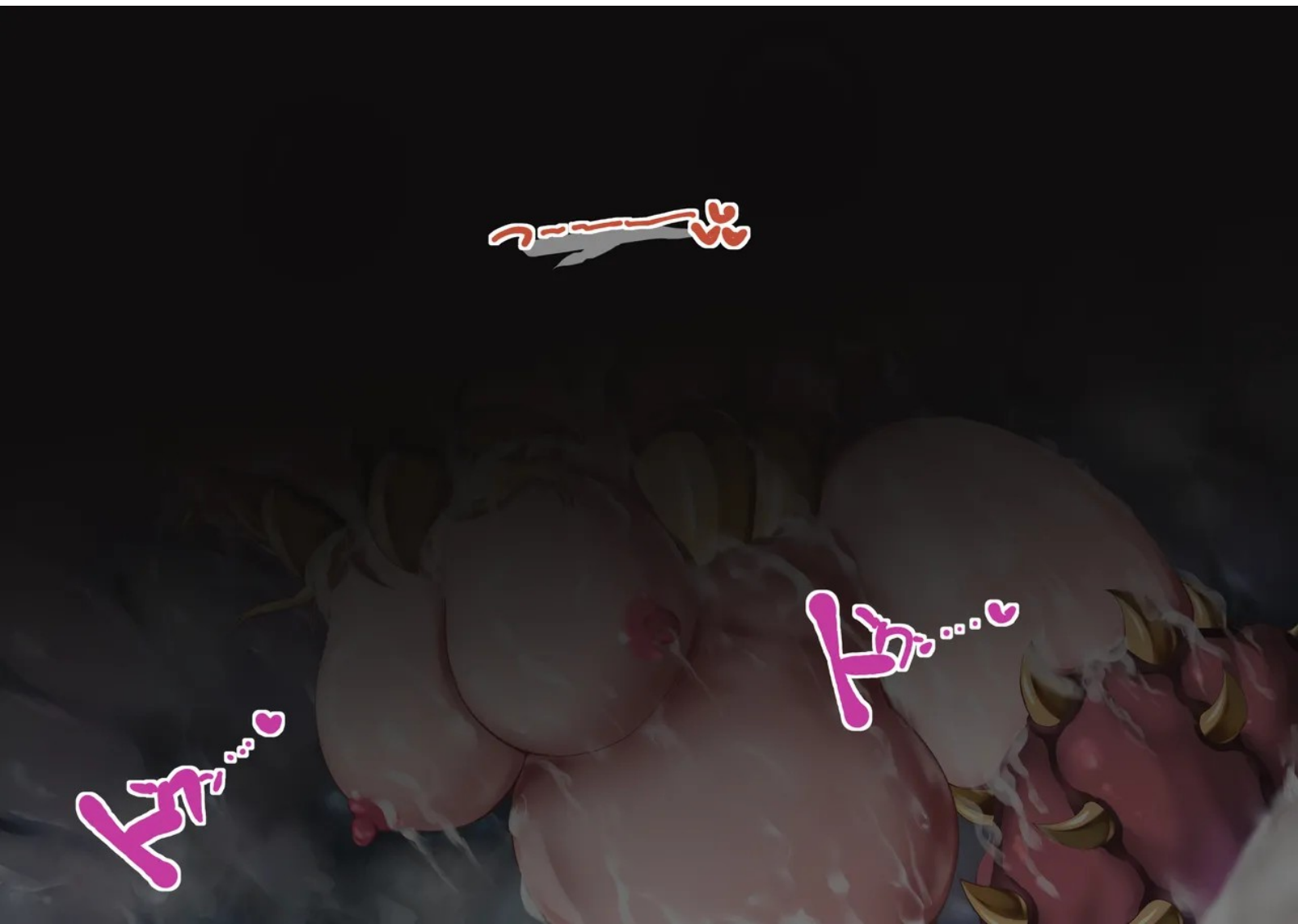
んんん…♡















ん...ん

ズズ...

キー

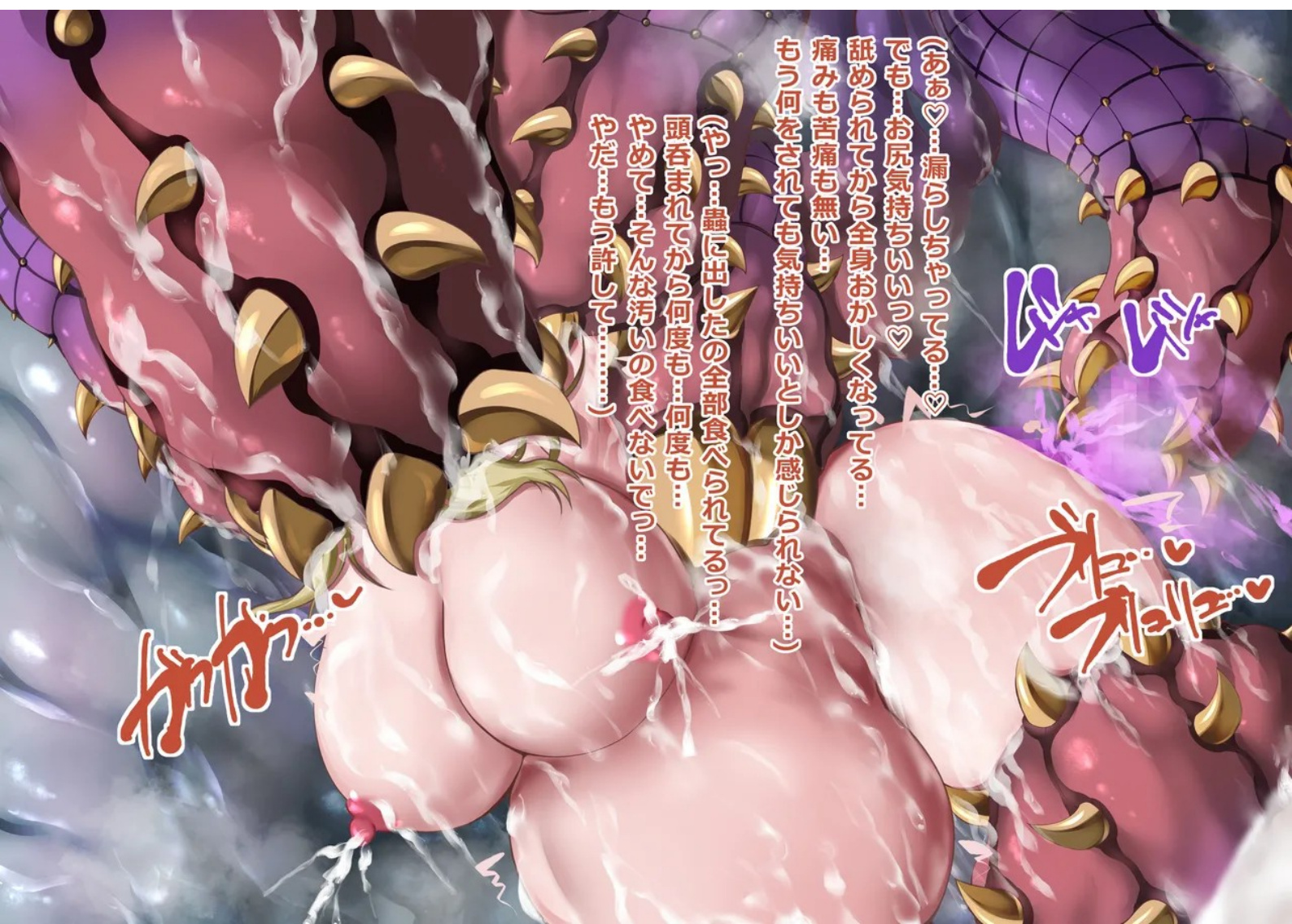
ん...ん

(ああ♡
蟲の吐息が当たってっ...
お尻に来てるっ...)



(んひいい♡舌でお尻の穴…
グリグリこじ開けられてるっ…
またあれ出ちゃう…やめてええ…♡)





(ああ♡…漏りしちゃってる…♡)
でも…お尻気持ちいい♡
舐められてから全身おかしくなってる…
痛みも苦痛も無い…
もう何をされても気持ちいいとしか感じられない…)

(やつ…蟲に出したの全部食べられてる…
頭吞まれてから何度も…何度も…
やめて…そんな汚いの食べないで…
やだ…もう許して…)

ぐわー…♡

ぐわー♡♡



頭を吞まれ視界を奪われてしばらく経った…。
卵を植え付けられた私は母体として蟲達に世話をされていた。
見えずともお腹の脈動が強まり…
お腹の膨らみが卵の成長を私に伝えてくる。

ここで私は常に蟲の舌から体液を与えられ…
その分蟲達に私の汗や尿…体液を貪られる。
今や排泄物まで…私の尊厳は粉々にされていく。

ん

ぐ

おき





「げほげほっ…あうっうっ♡」
（頭が…解放された…？）
何で…？）



「あ……ああ……」

（蟲の口から解放されたのに臭い……
舌から不味い蟲の味が消えない……
口も鼻も隅々まで蟲の体液染みついている……）

「これが……私の身体……？」

……見えなくてもわかってた……わかってたけど……
……うう……」

（おっぱい大きくなって熱い……母乳まで……
卵が成長して……今にもお腹が破裂しそう……）



「私…もう駄目…っ…。
全身蟲達に好き放題汚されて…
お腹にこんなに卵産みつけられて…
身体も蟲に作り変えられてる…。
仮に助かっても…多分生きていけない…。」





「あううっ...お腹でっ...卵弾けて...
はひっ♡んひいひい♡」
(嘘...お腹の中で卵...産まれてる...
やだっ...やめてええ...)



「んぐっ…うううっ…♡」
（卵産まれた…産まれちゃった…
蟲の赤ちゃん…ああ……………
私のお腹の中で蠢いてるよお…）



「んぎいいう♡暴れちゃ…
産みたくな…っ…あひっ♡
大人しくして…んおお♡」

（蟲の赤ちゃん…出ようとしている…
まだ産まれてない卵かき分けて
膣内通ってきてる…!）

ズン!

ズン
ズン

ズン
ズン







「いやっ…いやいやいやああっ…っ」
(蟲の赤ちゃん産んでる…
産んじゃってるぅぅぅ…っ!)

ふふふ…

キッ!

キッ!



「ほひんっ♡そごっ♡やっ…
んっ…ひうっううう…」
(やっ…膈内で引っかかって暴れてるっ♡
あんっ♡はひっ♡暴れないでえー)

ゼン…♡

キ?キ?

ヒキ♡
ヒキ♡

ゼン…♡



「あぎっ…!?この感覚は…!?
またお腹で卵が…生まれたの…?」

(蠢いてる…まさか膈内に?
待って…ごないで…
まだ待ってええ——!)

ひゃっ!

きゃー!

きゃー!

ズズ…

19キ…!
19キ…!





「あ……ああ……♡」
（私……産んだっ……産んじやったっ……
蟲の赤ちゃん達……ああああ……）

ゼン……♡

はーはー！

くっ



「へ...っそんな...どうして...
蟲の赤ちゃん...
いっぱい産んだのに...っ...
お腹...全然変わってない...っ...」

(まだお腹...蟲の卵沢山...
...まだ産まれる...の？
あと何匹産まないといけないの...?)

もういや...

ふ...

ドク...♡

ドク...♡





「あ……ああ……
もう嫌だ！ーいやあー……っつー！
お願い放してええ！
これ以上蟲の赤ちやんなんて産みたくないっ！
出して！ここから出してえええー……！」



「んううう…やめっ…
んああ…はああ♡」

（この蟲達…まさか私が産んだ…!?
おっぱい乱暴に吸い付かないでっ…!!
ああ♡…駄目え♡離れてえ…♡
気持ちよくなっちゃう…♡）





「ほひっ♡おっぱい…はへええ…♡
お願…い…い…♡
もお…気持ちよく…しないれえ…
…許し…へえ…♡」



「あ…あひいっ♡」

(舌で乳首広げられてるっ!!
おっぱいも壊れちゃう…
これ以上私の身体おかしくしないでっ!!
やめてええ——っ!)

アッ…ッ!!
あぁ

グニッ!

グニッ!

グニッ



「う……じょ……」

おっぱいはいつひえ……っ!?
やらあ……やらあああー!」

(蟲の赤ちゃん……
おっぱいに入ろうとしているの……!?
無理っ……そんなの無理いいい!?)

バ……

ゲ……

バ……





「ふんふん……ひんぷん……」♡」

（蟲の赤ちゃん達…お願い早く出ていってっ！
私のおっぱいの中でっ…何してるのぉ…!?!）









「う……うし……おっぱいが……
……しよんなごと……いやっ……
いやあああ——っ」

（んひゃああ♡おっぱい熱いっ……
中で沸騰してるみたいに熱いよお……
はひっ♡苦しっ……破裂しちゃううううう!!）

ドン……♡

ゼン……♡

ゼン……♡



「おっぱい…んぎいいい!?
おほおほおっ♡」

（おっぱいの濃くて熱いドロドロミルク…
沢山出ちゃってみるぅぅぅ♡
ああ…全然止まらないっ…!）





ほいっ!

かっ!



「あっ…あ…ああ♡」

（私の全部…おっぱいに集まって…

全部ミルクにされてるみたい…

中身吸われてくぅ…意識が…遠のいてえ…）

「…あ…ああ♡♡♡」

（ミルク止まらないっ…干からびちゃう…

そっか…このまま私…楽になれ…るんだ…

蟲達の…赤ちゃんの…栄養源になりな…がら…

これで…やうと…お…）

わんわん…

え…♡

ふ…♡

ぎゅ…♡

ぎゅ…♡



「.....あ.....ああ♡
すうすう.....♡すうすう.....♡」

(え.....この匂が.....臭うけど
甘い香り.....♡.....
あああ.....♡はへええ♡)

あ.....ふ.....ふ

プー.....♡

ズグ...

ズグ...





「がほうっ!...つぶらううう♡
ごほごほう...すおおお...♡」

（蟲の体液勢いよく注ぎ込まれてっ...あのガスもっ...
っ!?...身体が潤って...意識も引き戻されてく...!?
まさかこの蟲達...私を生かそうとしているの...?
こんなことしないであう...もう嫌なのっ!
やめて...っ...楽しんでええ...!）

ドク...♡

ドク...♡

ドゼ!

ドゼ!

ドク...♡



「あブアあ…
んく♡…んくつ…♡ちゅうううう♡」

（ああ…何でこの汁…急に美味しく…
ガスのこの甘い香りも…ああ…好きいい♡
もう嫌なのに…本能がこれを求めて拒めないっ…
枯れる寸前だった身体に…染み渡るうう…）



「あ…アあ…!?」

（さっきまで死にそうだったのに…
もう何ともない…なんだか…身体も変わって…!?
それに何で…どんなに気持ちよくなっても
全然狂えない…最初にカスを吸った時みたいに
頭の中飛んじやうくらいなあの感覚が…っ…!?）

「あ…レ…っ…なん…がっ……
ゴ…えが…!?」

（声がおかしい…そんな…っ…
……。）

もう死ぬことも…壊れることも出来ない…
私…ここで蟲に生かされ続けるんだ…
辱められながら…ずっと…ずっととおお…）

ん…っ…

アが……!?



ズン!!

「へん...」
「目が...熱い...」



何...?

お口...

お口...



「いやアア…っ…!?
アガ…ああ…!?」

(見えない…何も見えない!?
蟲も…光すら感じれない…っ…!)

「アぎっ…来ハアあああ…♡」

（お腹でっ…卵また産まれて…

そうだ…私のお腹の卵…

沢山…残ってたんだ…っ…）

「やっモお産ビたくっ…！

…生マれっリユウラウ♡

フヘええ♡えうアアあ♡」

セク〜

ズ…♡

ハキ…♡

ハキ…♡

セ…♡





おっ、オオオオ

キー！ キー！

ア

大ひび

アア

アア







(あ……ああ……終わりのない地獄……
何も見えない……動くことも出来ない……)

ただ醜い声で喘ぐ事しか出来ない……
死ぬことも……抗う事も出来ず……
狂って当然の快楽にも狂えず生殺し……)

(ここで私は永遠に弄ばれる……
蟲の苗床として……蟲の玩具として……)















ギ...

ギィヒヒヒ...

ギー ｷｷ

ギ

(誰カ...だれでモイイ
たじゆけ...で...タジユ...へへ
た...じゆ...
死...ニダ...殺シ...デ...)

ギハヒ...

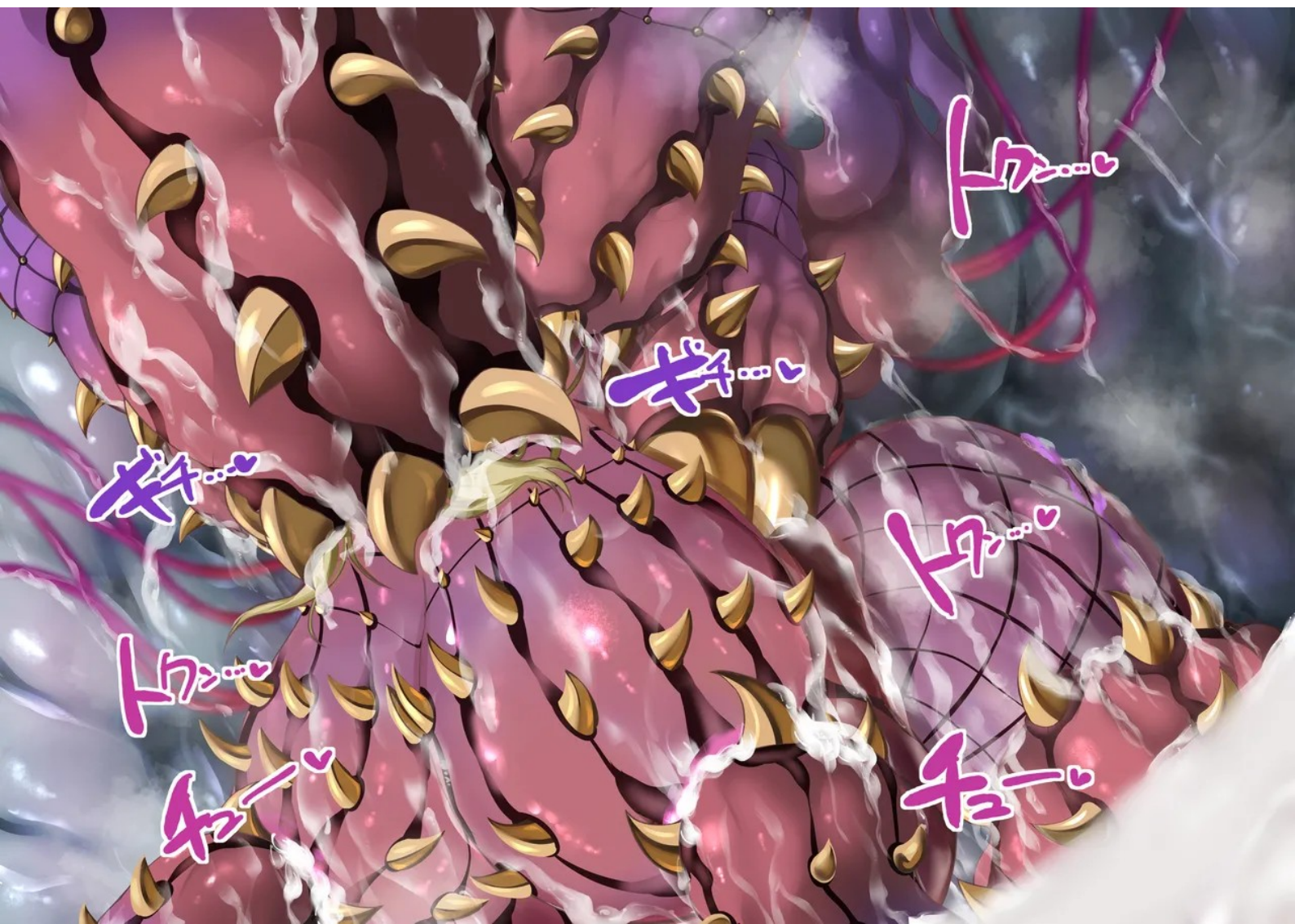
カァッ



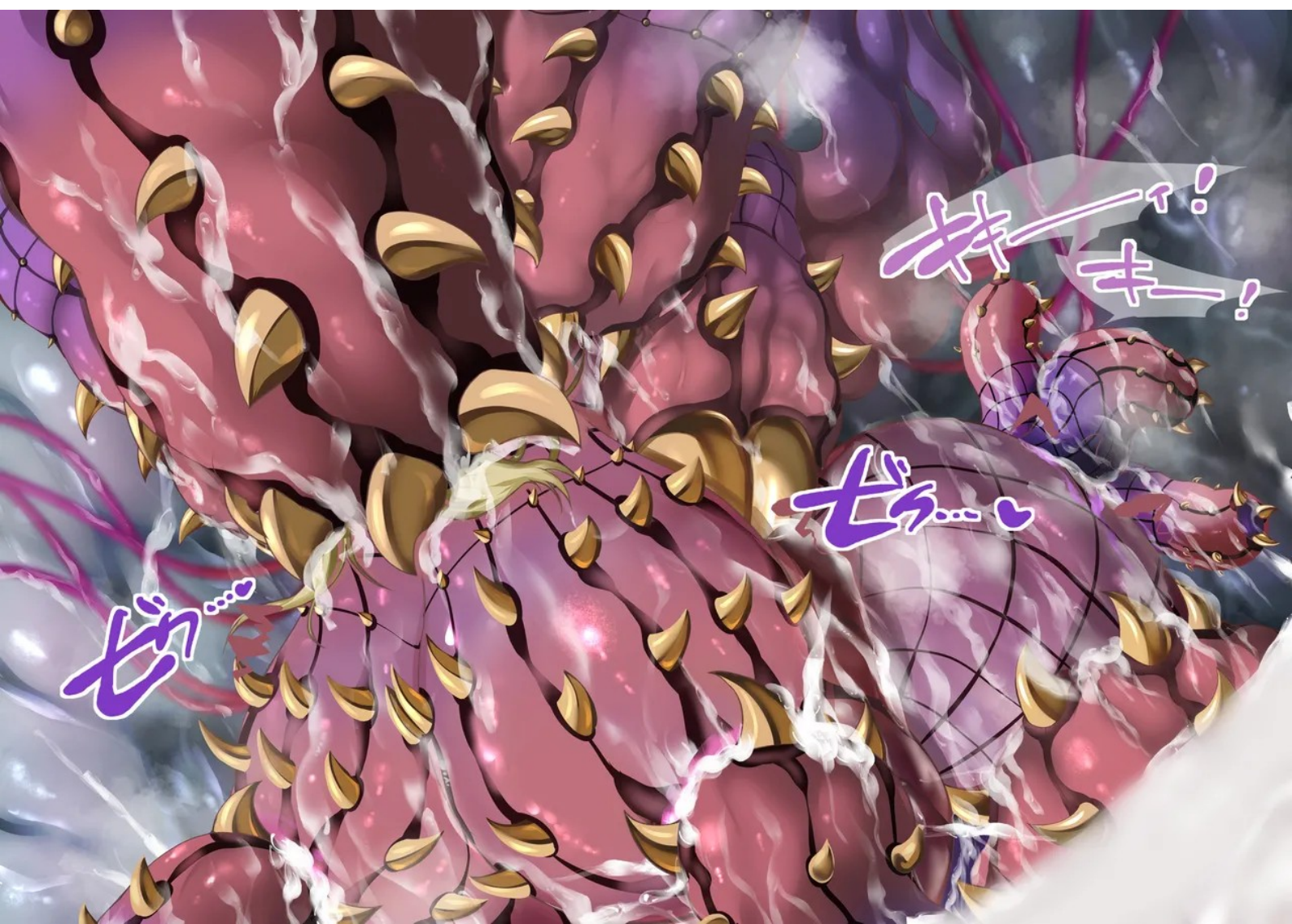


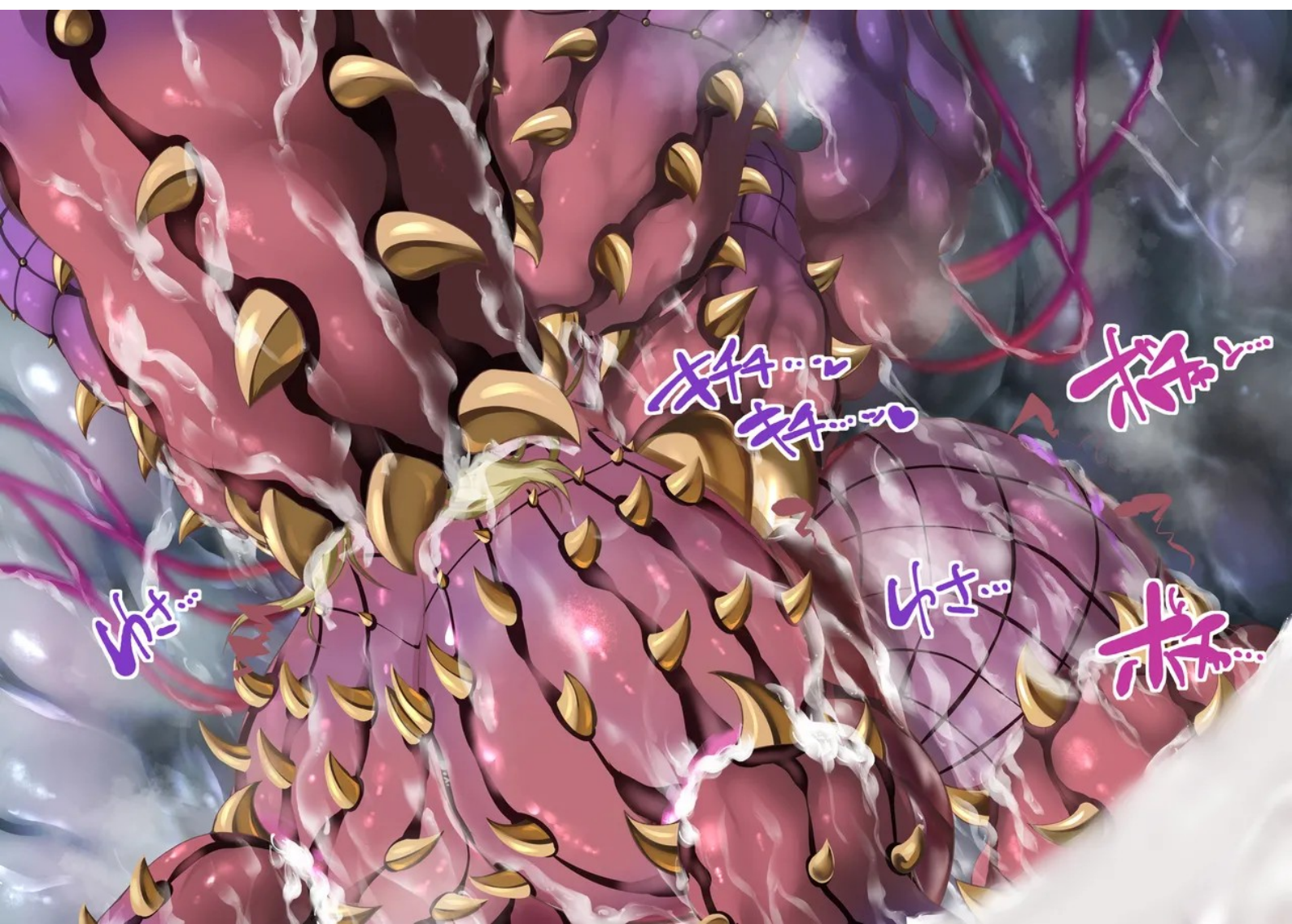














ガッ...

ギョー...イ...

...

(モ...ユル...ジテ...
ゴ...ro...シde...)



ギ...ギ...

ズ...

キキキ

ズ...

キー

キー



レロレロ...

クエッ

カボン... ギエエ...
オグオグ...

クエッ

クエッ

キーン!
キー

キーン



かぼた
かぼた

ドゼー

ゼー





ギミ
オバオギー

セー?

アッ



アギエエ...♡
オゲオゲ...♡

ブル...

アホ...

アホ...





トク...♡
トク...♡

(ウナギ...ムサシ...ウナギ)
ムサシ...ムサシ...

BADEND・終わることなき地獄
メデューサワーム苗床化レイ



レイのメデューサワーム苗床化レポート01

この巨大なメデューサワームはメスを生かしたまま呑み込み、体内で捕らえながら自らの仔を植え付ける器官として取り込む習性がある。いくつもある肉壁の小部屋のような体内袋の中にメスを収容し、その肉体を自らの器官として最適化させていく。

レイも呑み込まれ今回そこに加えられた一人。意識を奪われ、腰と首、髪を固定され体内袋に幽閉されている。

・レイの四肢を呑み込んでいるのは既に囚われている別の母体が産んだ仔が成長した姿。



レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・捕らえたメスの反抗への対処
メデューサワームが口から放つ強力な毒霧。
抵抗するメスに対してはこれを吸わせることで無力化する。
感覚や意識は奪わず、肉体の力や魔法の力のみを麻痺させる。
後遺症等はなく通常数時間で回復する。
肉体改造がある程度進行すれば必要なくなる為、基本は最初のみ
使用される。



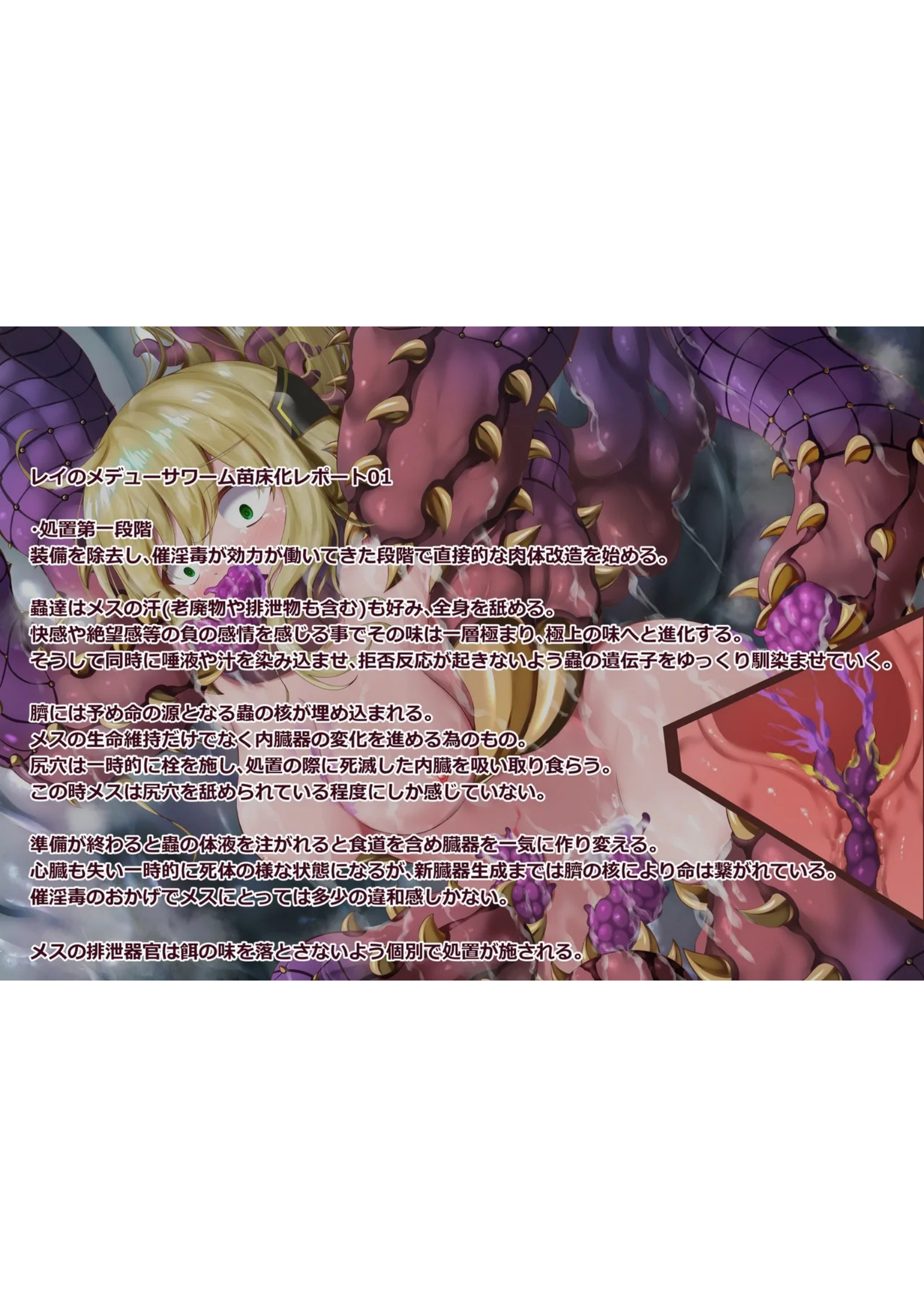
レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・処置第一段階

メスの身に付けた装備を破壊・無力化しつつメデューサワームの体内で生成された高濃度な催淫毒を吸わせていく。

摂取量にもよるが一時的にメスに非常に強い高揚感と直後の疲労感をもたらし、徐々にその効果は薄れていく。
更に後遺症として催淫作用のみが肉体に残り続ける。

これによりメスは肉体改造にも苦痛を感じることなく肉体改造が施される事となる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・処置第一段階

装備を除去し、催淫毒が効力が働いてきた段階で直接的な肉体改造を始める。

蟲達はメスの汗(老廃物や排泄物も含む)も好み、全身を舐める。

快感や絶望感等の負の感情を感じる事でその味は一層極まり、極上の味へと進化する。

そうして同時に唾液や汁を染み込ませ、拒否反応が起きないように蟲の遺伝子をゆっくり馴染ませていく。

臍には予め命の源となる蟲の核が埋め込まれる。

メスの生命維持だけでなく内臓器の変化を進める為のもの。

尻穴は一時的に栓を施し、処置の際に死滅した内臓を吸い取り食らう。

この時メスは尻穴を舐められている程度にしか感じていない。

準備が終わると蟲の体液を注がれると食道を含め臓器を一気に作り変える。

心臓も失い一時的に死体の様な状態になるが、新臓器生成までは臍の核により命は繋がれている。

催淫毒のおかげでメスにとっては多少の違和感しかない。

メスの排泄器官は餌の味を落とさないよう個別で処置が施される。



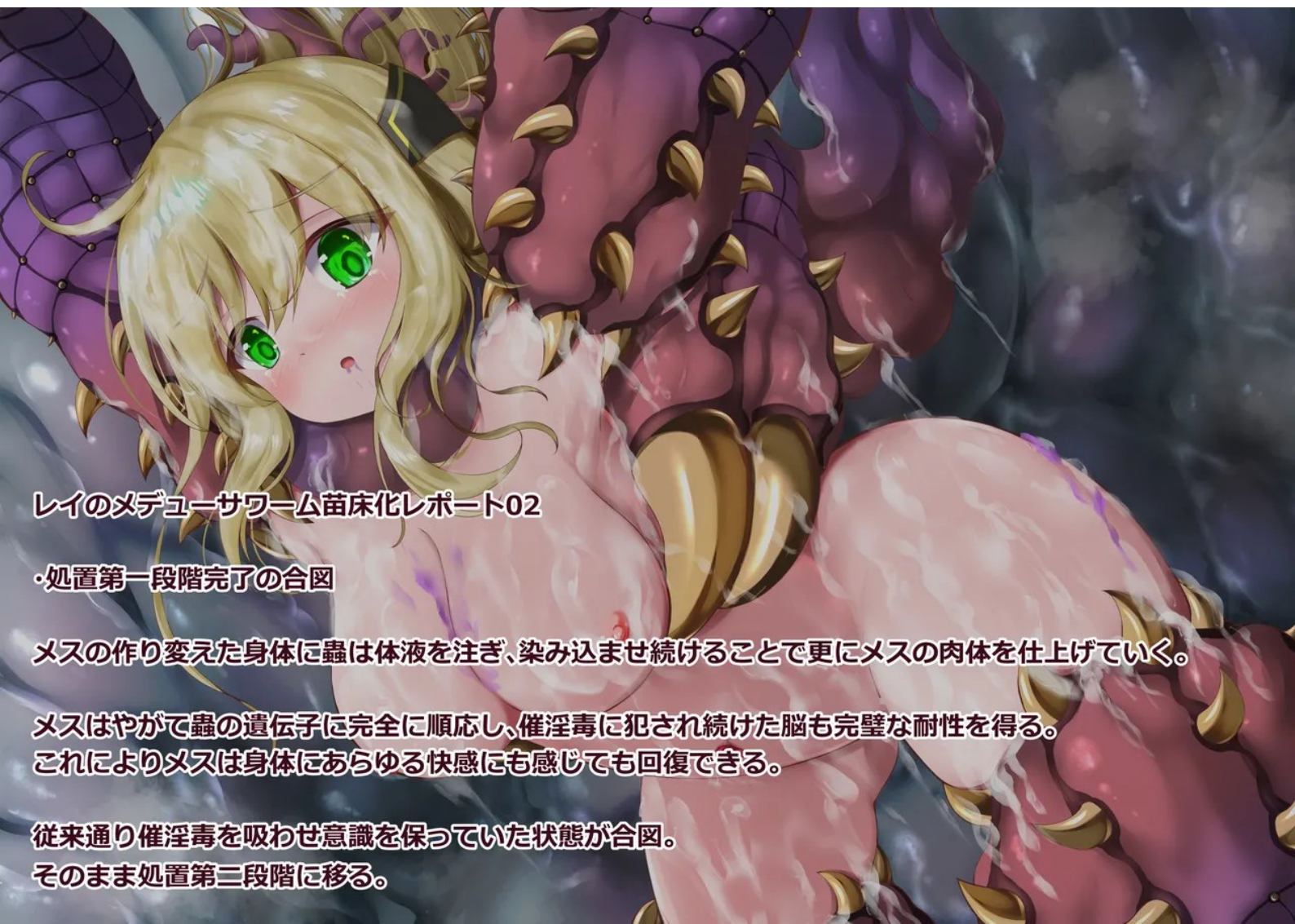
レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・処置第一段階

仕上げにメスには催淫毒を限界寸前まで吸わせることで一時的に改造は完了となる。
催淫毒の肉体的影響は後遺症として残り続けるが、精神的影響は目覚めと共に消え本来の自我を取り戻す。
これはメスの絶望感を常を感じさせるため、餌製造器官として味を損なわない為の処置である。

外見的には変化はないが、現時点で内臓は大半が蟲化しここで生きる環境が整う。
無理矢理意識を戻すことはせず、休ませ同時に蟲の遺伝子に適応させていく。

メデューサワームの仔達が自らの体液を注ぎ染み込ませ、蟲の遺伝子を肉体に馴染ませていく。



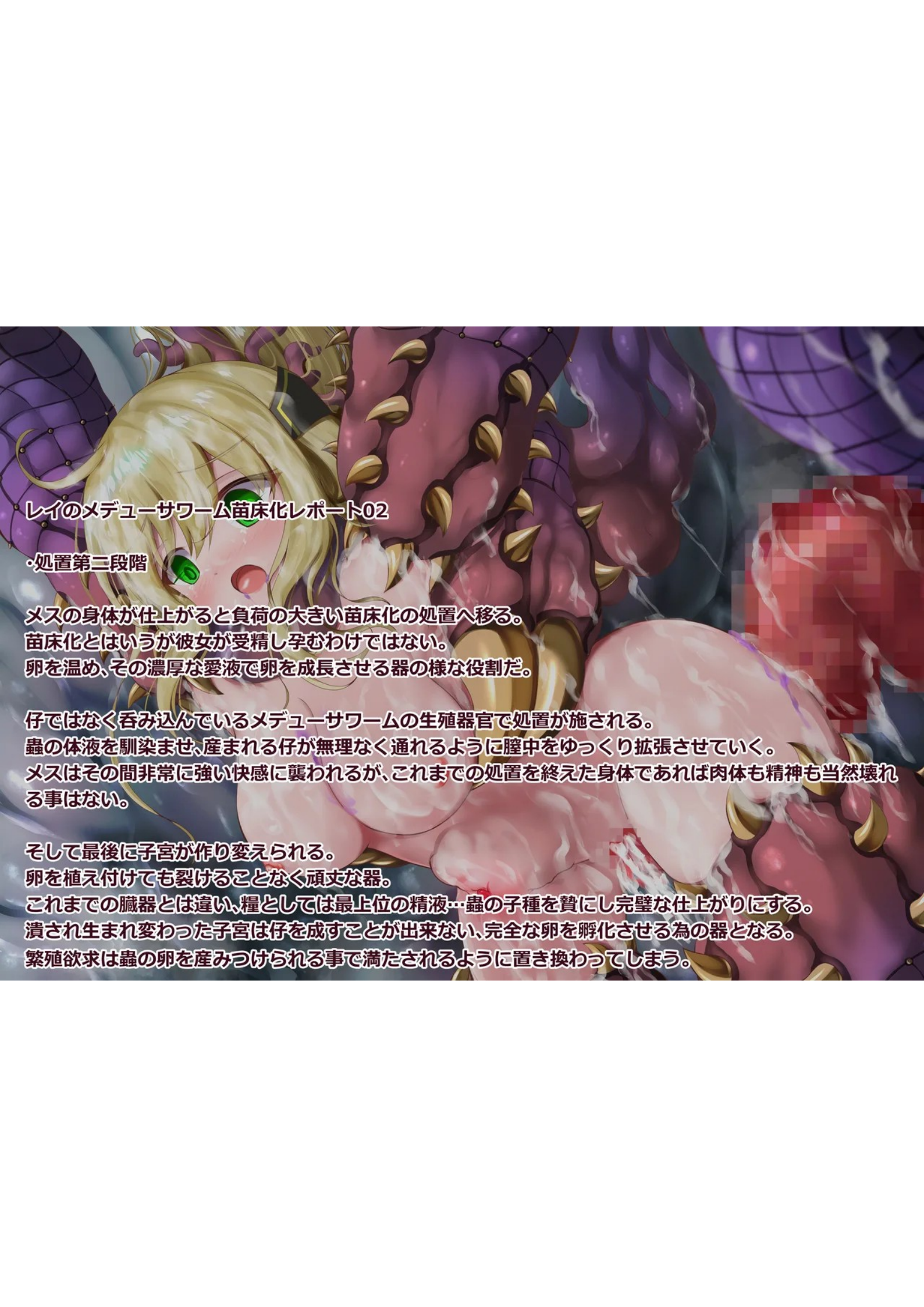
レイのメデューサワーム苗床化レポート02

・処置第一段階完了の合図

メスの作り変えた身体に蟲は体液を注ぎ、染み込ませ続けることで更にメスの肉体を仕上げていく。

メスはやがて蟲の遺伝子に完全に順応し、催淫毒に犯され続けた脳も完璧な耐性を得る。
これによりメスは身体にあらゆる快感にも感じて回復できる。

従来通り催淫毒を吸わせ意識を保っていた状態が合図。
そのまま処置第二段階に移る。



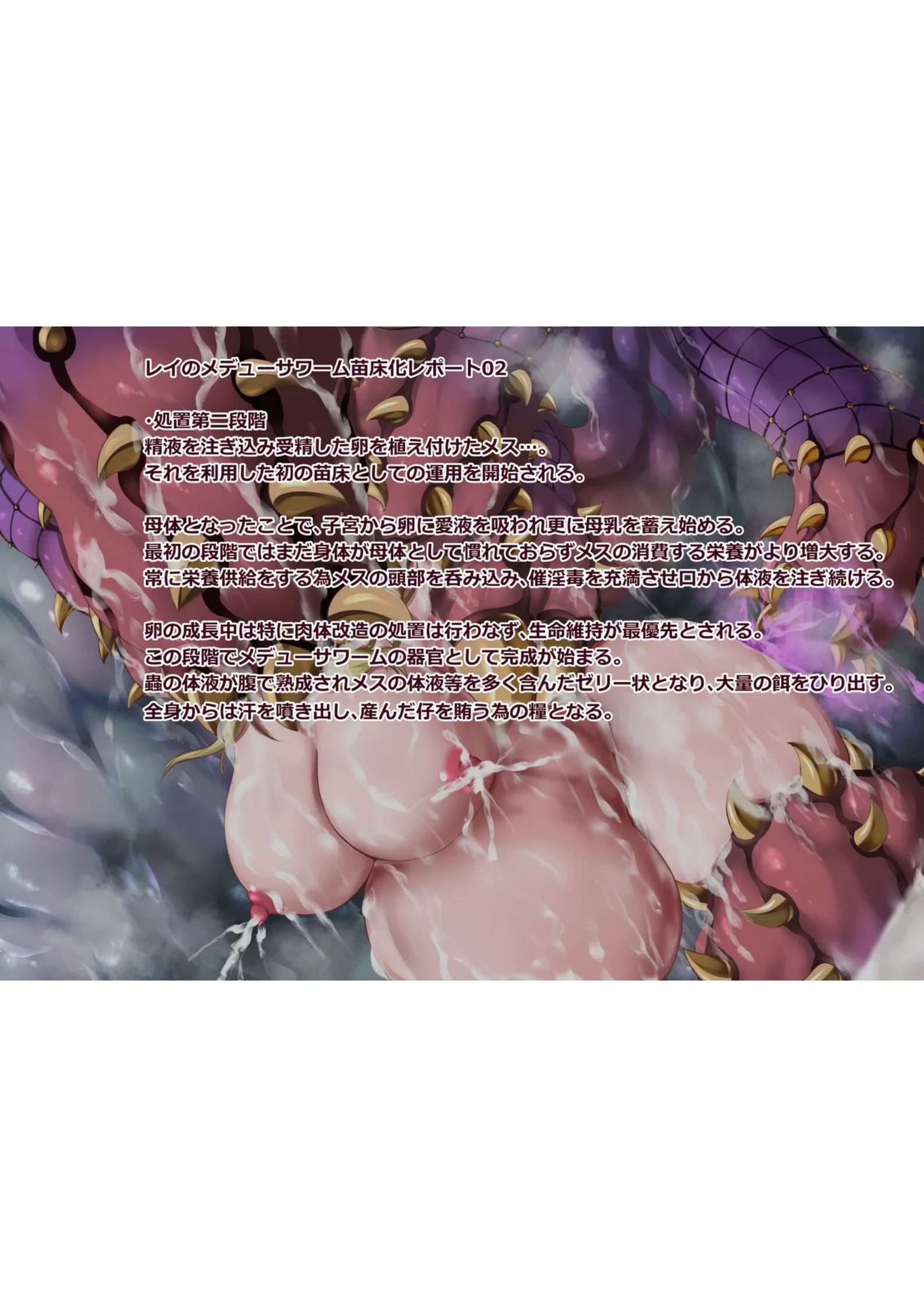
レイのメデューサワーム苗床化レポート02

・処置第三段階

メスの身体が仕上がると負荷の大きい苗床化の処置へ移る。
苗床化とはいうが彼女が受精し孕むわけではない。
卵を温め、その濃厚な愛液で卵を成長させる器の様な役割だ。

仔ではなく呑み込んでいるメデューサワームの生殖器官で処置が施される。
蟲の体液を馴染ませ、産まれる仔が無理なく通れるように腔中をゆっくり拡張させていく。
メスはその間非常に強い快感に襲われるが、これまでの処置を終えた身体であれば肉体も精神も当然壊れる事はない。

そして最後に子宮が作り変えられる。
卵を植え付けても裂けることなく頑丈な器。
これまでの臓器とは違い、糧としては最上位の精液…蟲の子種を贅にし完璧な仕上がりにする。
潰され生まれ変わった子宮は仔を成すことが出来ない、完全な卵を孵化させる為の器となる。
繁殖欲求は蟲の卵を産みつけられる事で満たされるように置き換わってしまう。



レイのメデューサワーム苗床化レポート02

・処置第三段階

精液を注ぎ込み受精した卵を植え付けたメス…。
それを利用した初の苗床としての運用を開始される。

母体となったことで、子宮から卵に愛液を吸われ更に母乳を蓄え始める。
最初の段階ではまだ身体が母体として慣れておらずメスの消費する栄養がより増大する。
常に栄養供給をする為メスの頭部を呑み込み、催淫毒を充満させ口から体液を注ぎ続ける。

卵の成長中は特に肉体改造の処置は行わず、生命維持が最優先とされる。
この段階でメデューサワームの器官として完成が始まる。
蟲の体液が腹で熟成されメスの体液等を多く含んだゼリー状となり、大量の餌をひり出す。
全身からは汗を噴き出し、産んだ仔を賄う為の糧となる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート02

・処置第三段階完了

子宮の中で卵がいくつか孵化を始めメスの体外へ産まれ出る。

仔により徐々に膣中も拡がり始める。

やがて数匹を一気に産み落とすようになり、メスは苗床として完成する。

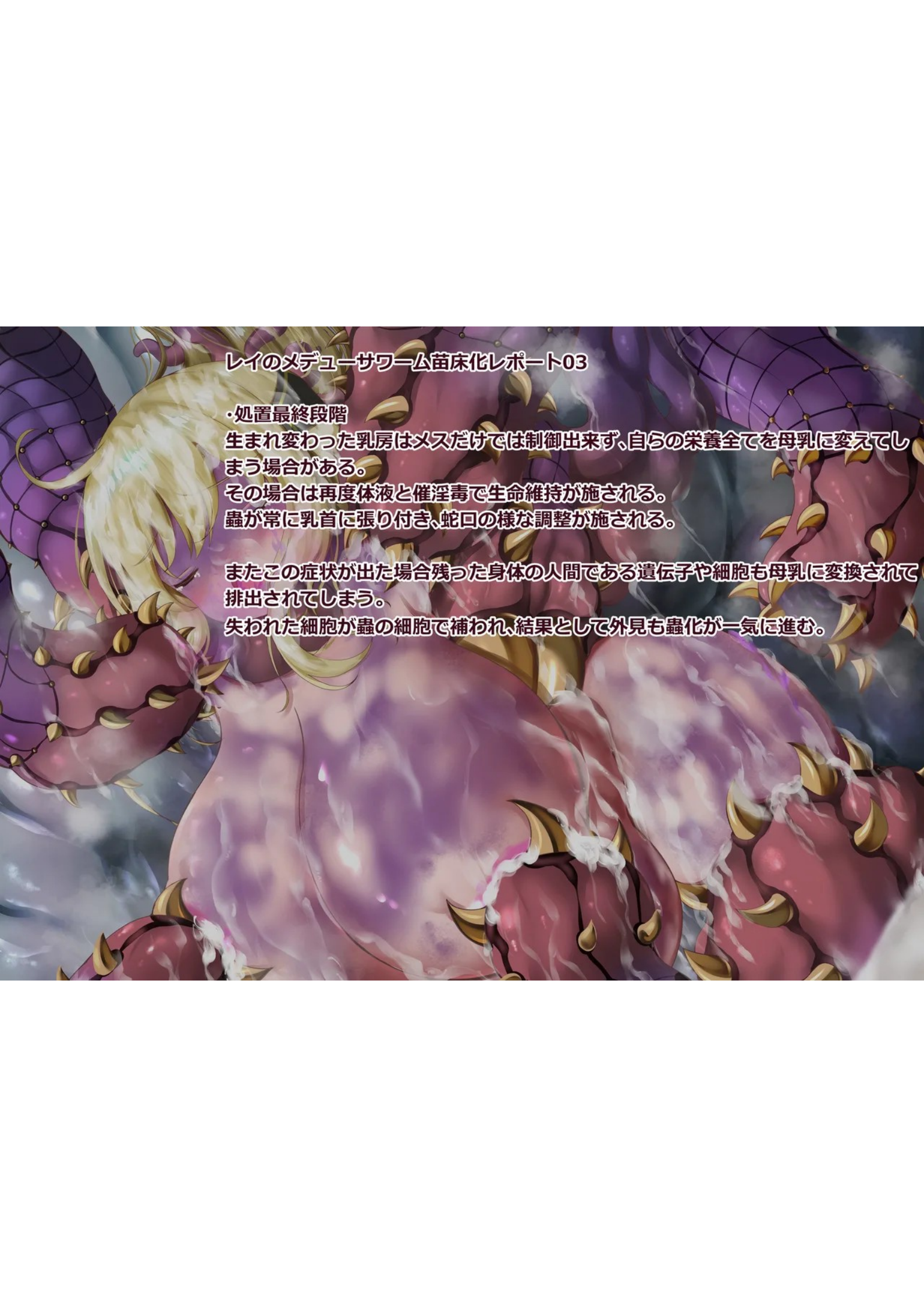


レイのメデューサワーム苗床化レポート03

・処置最終段階

苗床化を終え最後に活性化した胸の改造が始まる。

母乳の味と量…両方を極限まで高める為、産んだ最初の仔が中に入り込み寄生する。
乳房内部に入り込むと蟲の仔はメスの新たな乳腺器官として形成され、無尽蔵に母乳を生成するミルクサーバーとなる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート03

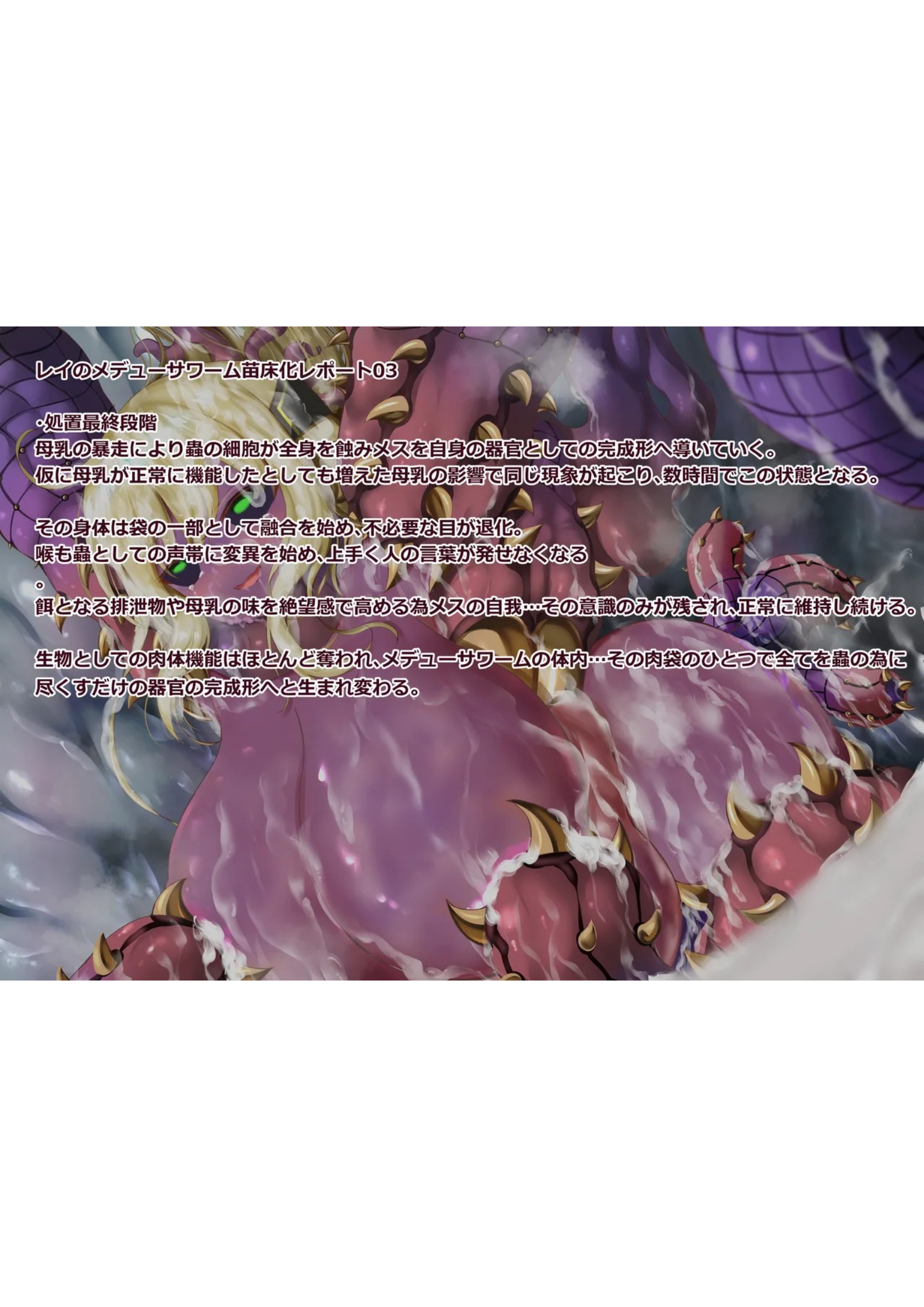
・処置最終段階

生まれ変わった乳房はメスだけでは制御出来ず、自らの栄養全てを母乳に変えてしまう場合がある。

その場合は再度体液と催淫毒で生命維持が施される。
蟲が常に乳首に張り付き、蛇口の様な調整が施される。

またこの症状が出た場合残った身体の間人である遺伝子や細胞も母乳に変換されて排出されてしまう。

失われた細胞が蟲の細胞で補われ、結果として外見も蟲化が一気に進む。



レイのメデューサワーム苗床化レポート03

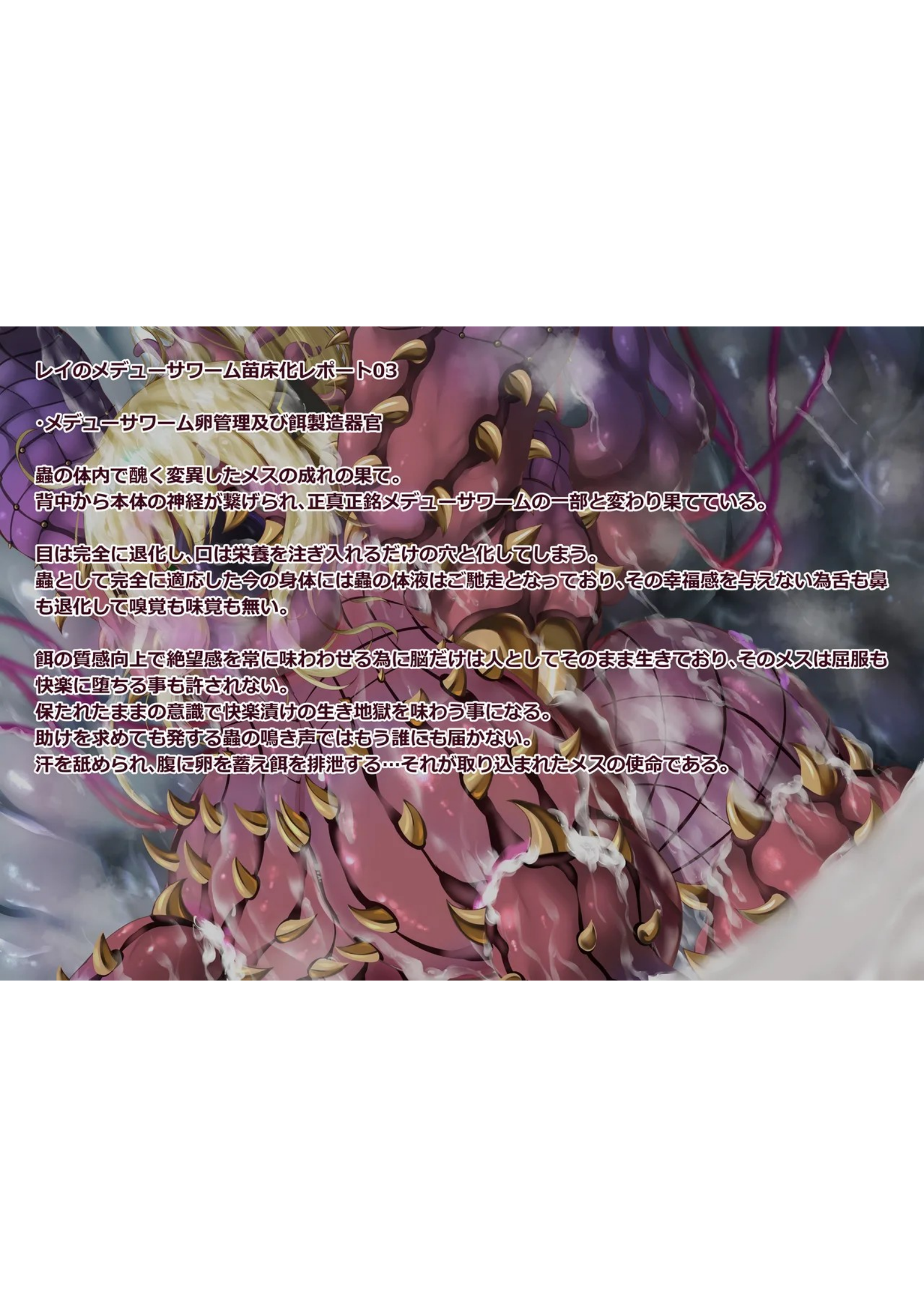
・処置最終段階

母乳の暴走により蟲の細胞が全身を蝕みメスを自身の器官としての完成形へ導いていく。
仮に母乳が正常に機能したとしても増えた母乳の影響で同じ現象が起こり、数時間でこの状態となる。

その身体は袋の一部として融合を始め、不必要な目が退化。
喉も蟲としての声帯に変異を始め、上手く人の言葉が発せなくなる

。餌となる排泄物や母乳の味を絶望感で高める為メスの自我…その意識のみが残され、正常に維持し続ける。

生物としての肉体機能はほとんど奪われ、メデューサワームの体内…その肉袋のひとつで全てを蟲の為に
尽くすだけの器官の完成形へと生まれ変わる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート03

・メデューサワーム卵管理及び餌製造器官

蟲の体内で醜く変異したメスの成れの果て。

背中から本体の神経が繋がれ、正真正銘メデューサワームの一部と変わり果てている。

目は完全に退化し、口は栄養を注ぎ入れるだけの穴と化してしまう。

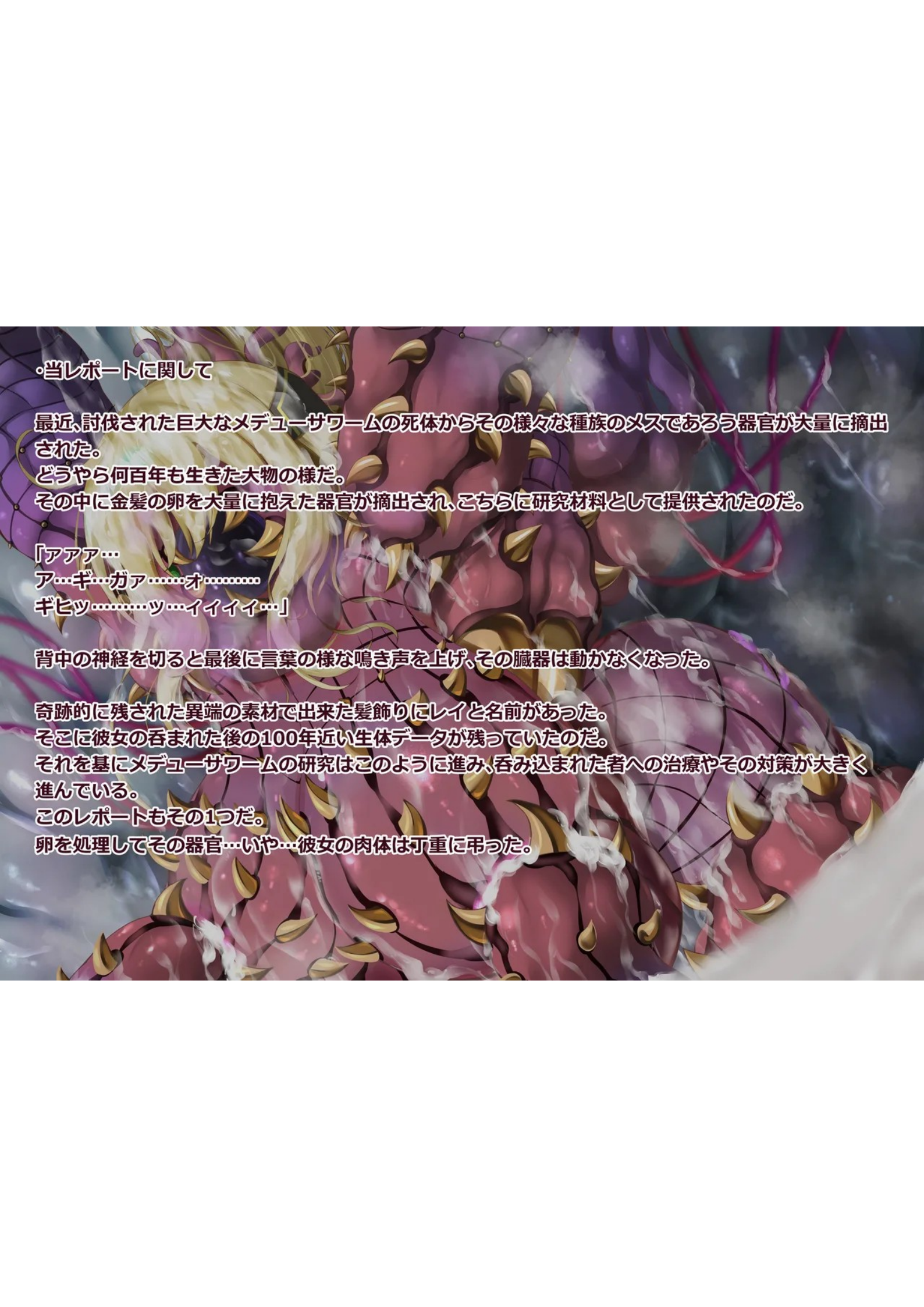
蟲として完全に適応した今の身体には蟲の体液はご馳走となっており、その幸福感を与えない為舌も鼻も退化して嗅覚も味覚も無い。

餌の質感向上で絶望感を常に味わわせる為に脳だけは人としてそのまま生きており、そのメスは屈服も快楽に堕ちる事も許されない。

保たれたままの意識で快楽漬けの生き地獄を味わう事になる。

助けを求めても発する蟲の鳴き声ではもう誰にも届かない。

汗を舐められ、腹に卵を蓄え餌を排泄する…それが取り込まれたメスの使命である。



・当レポートに関して

最近、討伐された巨大なメデューサワームの死体からその様々な種族のメスであろう器官が大量に摘出された。

どうやら何百年も生きた大物の様だ。

その中に金髪の卵を大量に抱えた器官が摘出され、こちらに研究材料として提供されたのだ。

「アアア…

ア…ギ…ガア……オ……

ギヒツ……ツ…イイイイ…」

背中神経を切ると最後に言葉の様な鳴き声を上げ、その臓器は動かなくなった。

奇跡的に残された異端の素材で出来た髪飾りにレイと名前があった。

そこに彼女の呑まれた後の100年近い生体データが残っていたのだ。

それを基にメデューサワームの研究はこのように進み、呑み込まれた者への治療やその対策が大きく進んでいる。

このレポートもその1つだ。

卵を処理してその器官…いや…彼女の肉体は丁寧に吊った。